

- 立科小学校/午前9時～午前11時30分
電話 56-3131 (呼)・有線2190 (呼)
- 立科中学校/午後2時～午後5時
電話 56-1076 (呼)・有線2251 (呼)
- 立科町児童館/
午前 11時40分～午後 1時30分
電話 56-0303 (直通)
有線 8889 (直通)

※予約をされる方は児童館または小・中学校の
教頭先生へご連絡をお願いします。

しゅくず 学校は社会の縮図である

立科町教育相談員 岩上起美男

学校は社会の縮図である。

この教えは、学校と社会には密接な関係があることを説いています。

両者の密接な関係とは、相關関係(社会で起こっていることが同時に学校でも起こっている関係)と、因果関係(社会で起こっていることが原因となり、その結果が学校教育の場に及んでいる関係)です。

学校は、社会の同心円状にあり、大人の「光」の面が、学校教育の場に、夢や希望、勇気、感動、元氣、安心などを与えている反面、社会で起こっている様々な出来事が、その規模と程度を縮小した形で学校教育現場でも起こっており、大人社会の「影」の部分が、子どもたちの「心と体の育ち」に悪しき影響を及ぼしているからです。

特に、今日のネット社会においては、影響を及ぼす頻度や速度が目まぐるしく、影響の質と量も著しく拡大していると思います。

したがって、児童・生徒が充実した学校生活を送るためには、日々、大人が誠実に、正直に生きること、そして、大人社会が、秩序のある健全な社会であることが求められます。

学校教育に「世直し」の願いを託す気

持ちはよく分かりますが、大人が不誠実にして傲慢、強欲、厚顔無恥であるのに、また、大人社会であってはならない犯罪や不正行為、嘆かわしい事件が続発しているのに、子どもに一方的に道徳心を要求し、学校教育に社会浄化の全責任を課すのは、明らかに大人の身勝手というものです。

このような、子どもの問題は大人の問題である、という視点について、教育行政学が専門で、お茶の水女子大学教授、教育文化研究所長、中央教育審議会委員などを歴任した教育学者、森隆夫(1931-2014)が、その著書「教育の扉13」(ぎょうせい出版)において、次のように述べています。

○子どもの問題はイコール大人の問題であるということが、教育問題を考える視点の最も大切な基礎・基本である。教育の第一歩は模倣であり、子どもは、大人の言動を模倣するからである。

○学校教育が荒廃しているとか、子どもが荒れているとか言われているが、それは社会が荒廃し、大人が荒れていることである。子どもの非行が増加し、子どもの犯罪が増えているのは、大人の非行や犯罪が増加しているからである。

○子どもの教育問題は、子どもが悪いの

ではなく、大人が悪いからだという認識を持たない限り、問題は解決しないと云ってよい。問題の所在が社会全体に拡散しているからである。

○青少年対策は、大人対策であり、不健全な青少年を健全にするには、大人の健全化を図らなければならない。

○臨教審答申でも、教育荒廃の原因を、「近代工業文明の負の副作用」や「日本の社会・文化の特質」に求めている。

○一般に、教育の荒廃が指摘されるのは、社会的に行き詰まった時期であることが多い。政治・経済・社会の諸問題の解決が困難になったり、問題に真剣に取り組むことを避けたりするために、それを教育の責任にするわけである。

教育は、社会の難問の「紙屑箱」のようだと、かつてOECD(経済協力開発機構)が指摘した。難問が生ずると、紙屑をポイと「紙屑箱」に捨てるように、教育のせいにするのである。

○子どもの問題は大人の問題であると言われながら、大人の対策が少しも実行されていないことが大きな問題である。

森隆夫は、さらに、オーストラリアの動物行動学者で、ノーベル賞を受賞したコンラート・ロレンツ(1903-1989)の「文明が進歩すれば、大人は幼児化する。」という言葉を用いて、大